



青柳園だより

令和4年
2月号
文京区立青柳幼稚園

友達との関わりを深める冬

主任教諭 今村 久美子

厳しい寒さが続きます。冬本番の2月ですが北風の吹く青空の下、幼稚園の子どもたちは青柳小学校の校庭をお借りして凧あげをしたり、友達と鬼ごっこをしたり、元気いっぱい遊ぶことを楽しんでます。子どもたちは、友達との関わりを深めながら、遊びを楽しむようになってきています。

4歳児もも組は、お正月に年賀状をやりとりした経験から「ゆうびんやさんごっこ」を始めました。自分なりに絵や字をハガキに書き、切手の形の紙を貼ってポストへ。積木のバイクや郵便車の絵もあります。「ポストがこっち向きだと（手紙を）入れやすいね」「でもポストがこっち向いてると（ゆうびんやさんが手紙を）取りにくいなあ」「そうだね…僕はこっちの方がいいと思うけどな」と、ポストの向きについてお互いの思いを話す姿がありました。自分の思ったことを話したり、友達の言葉を聞いたりしながら、いろいろな考えがあることに気付いている姿です。

もも組 ゆうびんやさんごっこ



ここは、ゆうびんきょく

5歳児ゆり組は、節分に向けてグループで鬼をつくることになりました。心の中にいるどんな鬼を追い出したいか考えて、グループで話し合いました。一人一人が思いを出して話し合いを進めるものの、なかなかみんなの考えがまとまらないグループがありました。一人の子が考え込んだ後「片付けない鬼は？」と、つぶやきました。「それ僕のことだ（ニヤリ）」「私も家では片付けない（アハハ）」「それ、いいねえ」と、思いが一致してみんなが納得し“片付けない鬼”を作ることになりました。作る段階では、「この箱を顔にするのはどう？」「いいね」と考えを受け入れ合いながら作っていました。話し合う経験を重ね、一緒に遊びや活動を進めていく楽しさが分かってきた、ゆり組。自分の考えを相手に分かるように伝えたり、相手の考えを受け入れたりしながら、折り合いをつけつつ、仲間の一つの方向を向いて進んでいこうとする姿です。

ゆり組 グループで鬼作り

小学校以降につながる「主体的、対話的で深い学び」の芽生えを、友達との関わりを深めながら遊びや活動を楽しむ子どもたちの姿に見ることができます。進級、就学の春に向け、力が蓄えられる2月です。教師は、子どもたちの確かな育ちを見取り、支えていきたいと思えます。



どんな鬼を作ろうか



頭はこの箱を使おう